

第 59 回 日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会演題抄録執筆要項

1. 演題の登録は、全て電子メールによる登録とします。
E-mail: 59yuketsukinki@adfukuda.jp 宛にお送り下さい。
2. 電子メールの件名（表題）は「輸血抄録・筆頭発表者名」として下さい。
3. 抄録は、Windows で作成頂き、Microsoft Word で開いた状態で文字化けが発生しないか必ずご確認の上、お送り下さい。
4. 文字数は、演題名、所属、演者名および本文を含め 600 字以内とします。
5. 文字化けを防ぐために下記フォントに限定します。
日本語：MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝
英語：Century、Century Gothic、Arial、Arial Black、Times New Roman
6. 抄録は、演題名、所属、筆頭発表者名、共同発表者名、本文の順に記載して頂き、筆頭発表者名には、○をつけてください。
7. 図表は使用できません。
8. 下記の作成見本を参照の上、作成して下さい。
9. 演題応募締切：平成 27 年 9 月 4 日（金）必着です。多くの先生方からのご応募をお待ちしております。

作成見本

4. 同種骨髄移植（BMT）における CD34 陽性細胞数の検討

関西医科大学附属枚方病院 輸血・細胞療法部

○寺嶋由香利、山岡 学、大澤 眞輝、北村 里菜、井上まどか、阿部 操、
大西 修司、伊藤 量基、石井 一慶、野村 昌作

【はじめに】 BMT では、CD34 陽性細胞（CD34）数よりも有核細胞数（NCC）が指標とされる。今回、我々は骨髓液の CD34 数を測定し、生着への影響を検討したので報告する。

【対象・方法】 2007年から 2014年月に実施された BMT46 例中 CD34 数を測定した25例を対象とした。CD34 数別に① 1.0×10^6 個/kg 未満 4 例、② $1.0 \sim 2.0 \times 10^6$ 個/kg 未満10例、③ 2.0×10^6 個/kg 以上11例に分類し、NCC と比較した。【結果】 分類別 NCC 平均値は《①1.29、②2.28、③3.29》 $\times 10^8$ 個/kg で、NCC 中の CD34 数の割合（CD34%）は《①0.39、②0.76、③0.99》%、ドナーの平均年齢は《①46、②35、③31》才、好中球生着までの平均日数は《①25、②20、③17》日であった。【考案・まとめ】 対象25例の CD34 数と NCC の平均値はそれぞれ $2.0 \pm 1.4 \times 10^6$ 個/kg と $3.0 \pm 0.9 \times 10^8$ 個/kg で、CD34 数と NCC に正の相関（ $r=0.82$ ）が見られた。分類別に見ると、NCC が低値である程 CD34 %も減少し好中球の生着も長期化する傾向であった。また、平均年齢が高いほど CD34 %が低くドナー年齢が CD34 %に影響することも示唆された。今回検討した症例に生着不全は無かったが、①では BMT 後全例に感染症を合併し、生着日数の延長が感染リスクを高くする可能性が考えられた。NCC のみでなく CD34 数を指標とすることは、特に NCC が少ない症例で生着の予測因子となり、感染症対策に有益な情報となり得ると思われた。